令和5年度（2023年度） 事前評価調書

事前1	北海道内における室内空気中のアルデヒド類に関する実態調査	課題番号	24-01
研究目的	室内濃度指針値が設定されているホルムアルデヒド等のアルデヒド類について、北海道内における実態調査を行い、現在の実態を把握する。		
研究内容	本研究では、北海道内におけるアルデヒド類の実態調査を行う。		
研究期間	令和6年度～令和7年度	課題担当者	2人
関係施策行政検査	保健医療福祉行政の主な施策「だれもが安心できる医療の確保のために」		

○ 研究ニーズ（背景、必要性、緊急性）

- 北海道内の建物は、国内の他の地域に比べ気密性に優れている特徴があるが、気密性が高い状態で換気が不足すると、室内に化学物質発生源がある場合はその影響を受ける可能性がある。
- 建材や塗料等に含まれるホルムアルデヒドは、室内濃度指針値の設定や業界での規制によりその使用量は減少してきていると考えられるものの、その他の様々な放散源も考えられるため、その存在実態を把握することは重要であると思われる。
- 厚生労働省の実施している室内環境空気汚染全国実態調査ではホルムアルデヒドの調査も行っているが、北海道の建築様式の特異性もあることから、道としてその実態を把握することは重要であると考えられる。また室内空気中の化学物質が、近年の在宅勤務等のライフスタイルの変化によりどのような実態になっているのかについて調査することも重要であると考えられる。

○ 道が取り組む必要性

道内では高気密・高断熱性の建物が多く、また冬期間は暖房器具を使用するだけでなく、換気回数が不十分になりやすいことから、道として化学物質による室内空気汚染の実態を把握する必要がある。

○ 研究手法（これまでの研究成果・知見の活用、他機関との連携等）

- 実態調査については、過去に当所で行った研究の成果・知見を活用する。
- 室内空気中の化学物質に関する多くの知見を有する国立医薬品食品衛生研究所から必要に応じて放散源等に関するの情報収集を行うとともに、全国の地方衛生研究所及び道内各保健所等と必要な情報交換を行う。

○ 年次別目標

年次等	主な目標（項目）
令和6年度	実態調査を行う建物の選定、アンケートの作成、室内空気採取及び分析（実態調査）
令和7年度	室内空気採取及び分析（実態調査）、結果のとりまとめ

○ 成果の活用策（活用の可能性）

- 道内におけるアルデヒド類に関する室内空気中の実態を把握する。
- 研究成果については、学会や論文誌等で公表する。
- 調査結果等に関する有用な知見については、本庁や保健所等へフィードバックし、道のシックハウス対策として活用する。

	評価結果	説明	選定結果
自己評価	Ⓐ・B・C	本研究は北海道内における室内空気中アルデヒド類の実態を把握するものであり、北海道におけるシックハウス対策に密接に関連するため、優先的に取り組む必要がある。	Ⓐ・否
外部評価	Ⓐ・B・C	同上	Ⓐ・否
総合評価	Ⓐ・B・C	機密性の高い道内の建物においては、換気不十分により化学物質を原因とした健康被害を受けやすいことから、アルデヒド類による空気汚染の実態把握等の本研究は、優先的に取り組む必要がある。	Ⓐ・否